

アイヌ生活文化再現マニュアル

踊り

【リムセ・ホリツパ】

帯広・様似・白糠編

発刊にあたって

公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構は、平成9年より、アイヌ文化等に関する研究の推進やアイヌ語を含むアイヌ文化の振興やアイヌの伝統・文化に関する知識の普及・啓発を進めるため様々な事業を展開しております。

そうした事業の一環である「アイヌ生活文化再現マニュアル作成事業」は、アイヌの伝統文化を、映像や音声、文字などによって記録し、アイヌの人々をはじめとして、広く一般の人々や研究者の利用に供することにより、アイヌ文化の伝承・保存を図ることを目的としています。

本マニュアルがより多くの人々の利用に供され、アイヌ文化の振興が推進されるとともに、我が国の多様な文化の一層の発展が図られれば幸いです。

目 次

発刊にあたって

はじめに 5

<帯広地方>

サルキウシナイ（風景・情景の踊り） 10

バッターキ ウポポ（バッターの踊り） 18

<様似地方>

シカタクイクイ（情景の踊り） 26

フントリ フンチカプ（親子ヅルの踊り） 31

<白糠地方>

アトウイソ（舟こぎの踊り） 40

フンペ リムセ（クジラの踊り） 47

おわりに 60

参考文献 62

踊りを体験できる施設 63

凡 例

- ・映像編で入れることのできなかつた解説等も記しました。したがって、映像編と文言等で一部異なる個所があります。
- ・アイヌ語はすべてカタカナで表記し、現在各地域で伝承されている言葉で記載しております。

はじめに

アイヌの人たちは、祭りや儀式などで人が集まった時には、歌ったり踊ったりしました。アイヌの踊りは地域により「リムセ」、「ホリッパ」、「ウボボ」、「ヘチレ」などと呼ばれ、その種類は多種多様です。狩猟や採集の対象であった動植物をモチーフとして表現したり、体力の続く限り踊る、体力くらべのようなもの、杵つき等の作業の様子を踊りにしたものなどがあります。こうした娯楽としての踊りの他に、神々への感謝の気持ちを表す踊りや、魔を祓うための踊りもありました。



一般財団法人 アイヌ民族博物館蔵 「白老アイヌの生活」(大正11年)より

現在では、自分が楽しむものから劇場で上演するなど、観客に見せるという要素も加わっています。また、歌のメロディーや歌詞が似ていても意味や解釈が異なっていることがあり、地域や時代により変化してきたとも考えられます。

このマニュアルでは、北海道の帯広地方・様似地方・白糠地方の3つの地方に伝えられている踊り6種を紹介します。

帯広地方：「サルキウシナイ（風景・情景の踊り）」

「バツタキ ウポボ（ハツタの踊り）」

様似地方：「シカタクイクイ（情景の踊り）」

「フントリ ファンチカブ（親子ヅルの踊り）」

白糠地方：「アトウイン（舟こぎの踊り）」

「フンペ リムセ（クジラの踊り）」



サルキウシナイ



バツタキ ウポボ



シカタクイクイ



フントリ ファンチカブ



アトウイン



フンペ リムセ

■解説者

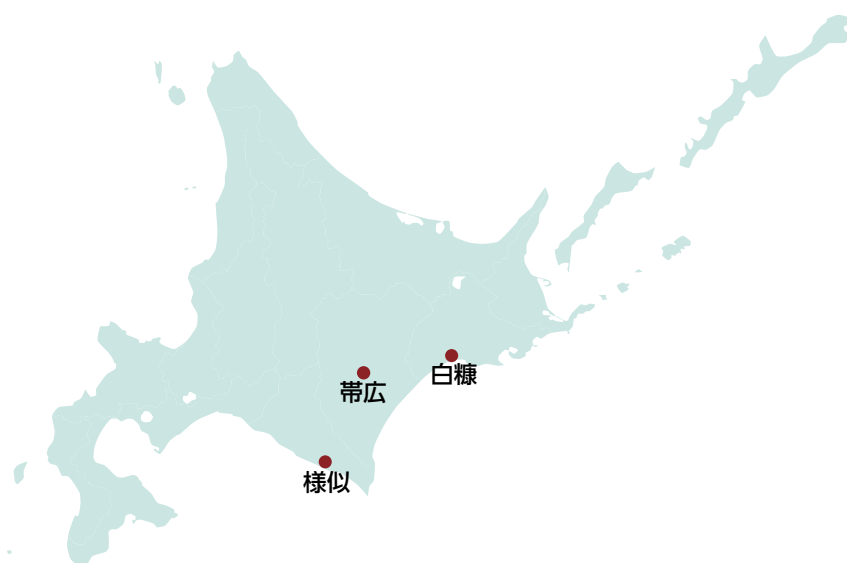
帯広地方：帯広カムイウポポ保存会
酒井奈々子さん



様似地方：様似民族文化保存会
熊谷カネさん



白糠地方：白糠アイヌ文化保存会
磯部恵津子さん



帯広地方

サルキウシナイ (風景・情景の踊り)



サルキウシナイ

北海道帯広地方に伝わるサルキウシナイ（風景・情景の踊り）は、川のほとりあるいは沼のほとりに生えるヨシが、風に揺られている様子を表した踊りです。原型は輪踊りですが、輪を作ることができない小人数でも踊ることができます。踊るのは女性で、舞台での踊りとして一列に並びます。歌と手拍子に合わせて移動せずとその場で踊ります。

■ 歌詞

♪ サルキウシナイ コータン コートウイマ ルイケー 以上くりかえし

アイヌの踊りの基本といわれる脚の屈伸を最初から最後まで続けます。風に揺られるヨシを表わすために、身体の向きを替えたり、傾けたりします。



■ 踊りの各部

基本的なうごきです。

- ① 手を打って、拍子をとります。両脚は常に屈伸させます。脚を伸ばすときには、かかとを上げます。この動きを終始続けます。



正面から



横から

②両脚の屈伸を続けながら両手でひざをたたき、次に軽くにぎった手を胸元に引き上げるという動きをくりかえします。



正面から



横から





- ③基本的な動きは、両袖口をつかんだまま、両袖を引いたり広げる動きをくりかえします。両脚の屈伸は続けます。



まず、身体を左に向けて上半身を右に傾けて、この動きをくりかえします。



次に時計回りで右を向き、上半身を左に傾けます。腕、脚は同じ動きです。



④反時計回りで左を向き、上半身を左に傾けます。手をたたいて拍子をとります。両脚の屈伸は変わりません。



次に、手をたたきながら時計回りで右を向いて上半身を右に傾けます。



⑤手で拍子をとりながら正面を向き、最後に
オンカムイをします。



【オンカムイ (拝礼する・おがむ・おじぎする)】

オンカムイは、両手の平を上に向けて、下から胸元に持ってきて下におろします。〈図1〉



オンカムイの方法

〈図1〉

【踊りのながれ】

① 一列に並び正面を向き(ア)を8回



歌い手

※一列に並び移動せず踊る踊り。

ア 手を打って拍子をとる
両脚で屈伸をする。
足を伸ばすときにはかかとを上げる。



② 正面を向いたまま(イ)を8回



イ 両手でひざをたたき
次に軽くにぎった手を
胸元に引き上げる。
両脚の屈伸を続ける。
くりかえす。



③ 左を向いて(ウ)を16回



正面

ウ 横向きで上半身を
正面に傾け、両袖を
「引く、広げる動き」を
くりかえす
両脚で 脚を伸ばすときに
屈伸する。 かかとを上げる。



④ 時計回りで右を向いて(ウ)を16回



正面

ウ 横向きで上半身を
正面に傾け、両袖を
「引く、広げる動き」を
くりかえす。
両脚で 脚を伸ばすときに
屈伸する。 かかとを上げる。



⑤ 反時計回りで左を向いて(エ)を16回



奥

エ 横向きで上半身を
奥に傾け、
手をたたいて
拍子をとる。
脚を伸ばすときに
かかとを上げる。 両脚で
屈伸する。



⑥ 時計回りで右を向いて(エ)を16回



奥

エ 横向きで上半身を
奥に傾け、
手をたたいて
拍子をとる。
脚を伸ばすときに
かかとを上げる。 両脚で
屈伸する。



⑦ 反時計回りで正面を向き(ア)を8回



ア 手を打って拍子をとる
両脚で屈伸をする。
足を伸ばすときに
はかかとを上げる。



⑧ オンカムイ



オンカムイ
両手を
ゆっくり
胸元へ。



サルキウシナイは、儀式の時などに楽しみとして踊られていたといわれています。このビデオでは、舞台などを想定した踊りとなっています。

バッタキ ウポポ (バッタの踊り)



バッタキ ウポポ

アイヌ語のバッタキというのはバッタのことで、ウポポは歌のことです。この歌に合わせて踊るのがバッタの踊りです。今から100年以上前、北海道東部十勝地方にバッタが大発生して、作物が大変な被害にありました。その様子を後世に伝えていこうと作られたのがバッタキ ウポポです。昆虫の動きを基にした独特な踊りのひとつで、おもに女性が踊り、こどもも踊ります。

■ 歌詞

- ♪ ハエー ハエー トカチエソオロ ハエー ハエー
- ♪ ハア チコッチャクター ハー チコッカパケ ハー チウトモキーイッ
- ♪ ハエー ハエー トカチエソオロ ハエー ハエー
- ♪ ハア チオシマクター ハー チシツケウェー ハー チウトモキーイッ

以上くりかえし

歌い手の歌と手拍子に合わせて踊り、腰を曲げたまま、手を前に出したりひじを高くつきあげたり、また脚はお尻につけるようにはねあげるなど、バツタににせているといいます。アイヌの踊りの基本である脚の屈伸を終始続けながら進みます。



■ 踊りの各部

基本的なうごきです。

- ① ひざを少し曲げ、上半身を直角に前へ傾けた姿勢で、手のひらを合わせて前につき出し、



正面から



横から



手を引くときにはひじをつき出します。脚は左右交互にかかとを高く上げて前に進みます。



②立ち止まったまま脚は屈伸を続け、脚を曲げたときに両手でひざをたたきます。脚を伸ばすときには、かかとを上げます。これをくりかえします。



③同じ場所で脚を屈伸させ、脚を曲げたときに背中手で手をたたきます。足を伸ばすときに、手を広げ、かかとを上げます。この動きをくりかえします。

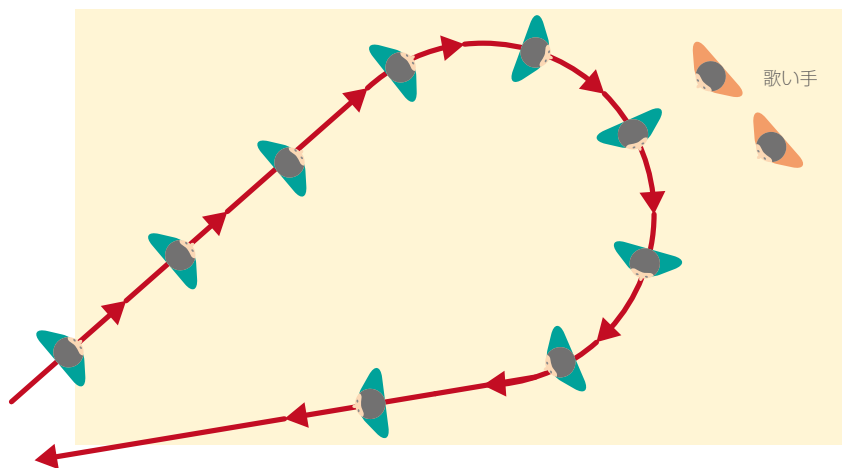


正面から



横から

④ここでは舞台を想定し、踊り手は一列になって進み、下手から登場し、おりかえして下手に退場します。〈図3〉



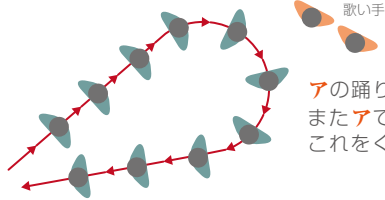
〈図3〉

踊り手が全員退場したところで、歌い手がオンカムイをして終わります。*オンカムイはP16を参照



【踊りのながれ】

※列になり舞台を半周し退場する踊り。

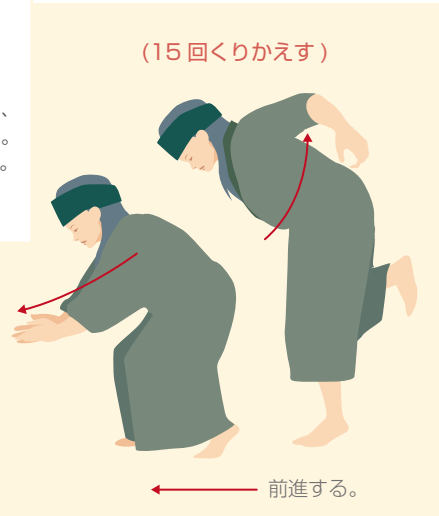


アの踊りで進み次にイを踊り、
またアで進んだあとウを踊る。
これをくりかえし進んでいく。

ア ひざを少し曲げ上半身を直角に傾ける。

手のひらを合わせて前につきだす。

手を引くときには後ろにひじをつき出し、
脚は左右交互に動かして、かかとを高く上
げながら前進する。



イ 立ち止まったまま脚は屈伸する。

脚を曲げたとき、両手でひざをたたく。

脚を伸ばすときは、かかとを上げる。

(12 回くりかえす)



ウ 立ち止まったまま脚は屈伸する。

脚を曲げたとき、
両手を背中へまわし手をたたく。

脚を伸ばすときは、かかとを上げる。

(12 回くりかえす)



〈図4〉

バッタキウボポは帯広独自の踊りとして受け継がれています。基本的には輪踊りで、交代で踊るといつまでも続けることができます。このビデオでは、舞台などを想定した踊りとなっています。

様似地方

シカタクイクイ (情景の踊り)



シカタクイクイ

シカタクイクイは類似地方に伝わる、情景を表した踊りです。シカタというのは東の風のこと、東の風によって雪が舞うように降ってきて、その雪が松の枝につもり、枝が重くたわんで、さらに雪が落ちる様子を踊りにしたものだと言われています。人数に決まりはなく、老若男女が参加できる踊りです。

■ 歌詞

♪ シカタクイクイ ウーパス ホンネー ルッケー ハッチン ナア

♪ シカタクイクイ ウーパス ホンネー ルッケー ハッチン ナ

以上くりかえし

踊りの基本は、ひざをしなやかに曲げたり、浮かせるように伸ばすことです。雪の降る様子をしなやかな手の動きで表し、枝につもる雪が落ちる様子は力強い動きで表現します。



■ 踊りの各部

基本的なうごきです。

- ① 手拍子をしながら歩きます。手拍子は横にたたきます。



次に右腕をあげ、しなやかに腕をゆらします。左手は腰にあてます。



つづいて、左右の腕をかえます。



②袖口をつかんで踊ります。両手を広げる、引きよせるという動きをくりかえします。



顔は輪の中心に向け、はねながら進みます。



途中から向きをかえ逆進します。時計回りにからだを回して向きを変えます。どちら向きに進んでも、上半身は輪の内側に傾けます。

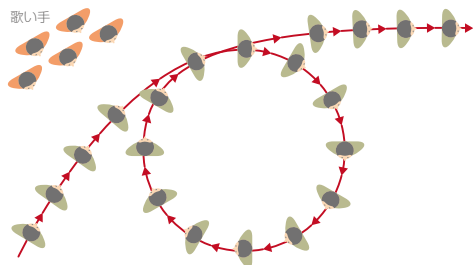
元の向きに戻るときには反時計回りです。



このビデオでは、舞台を想定した踊りです。踊り手は下手から登場して輪を作り、上手に退場して終了です。

【踊りのながれ】

※列になり舞台を円状になって退場する踊り。



ア、イ、ウの順でくりかえし踊り進む。

踊り手は下手から登場して輪をつくり上手に退場する。

ア 手拍子をしながら歩く
手拍子は横にたたく。



前進する。

イ 右腕を上げしなやかにゆらす。
左手は腰にあてる。
左右の腕をかえて踊る。



(右手で4回くりかえし、左手で4回くりかえす)

ウ 両袖を「引く、広げる動き」をくりかえす。
顔は輪の中心に向けはねながら進む。
途中から向きをかえ逆進する。

時計回りで8回飛び込み、
向きを変え逆進で8回飛び、
その後**ア**で時計回りに戻る。

どちら向きに進んでも
常に上半身は輪の
内側に傾ける。

(1方向8回くりかえす)



袖口をつかむ。

前へ飛び。

〈図5〉

シカタクイイは、人々が集まったとき、カムイノミ（神への祈り）をした後の宴、そのようなときに踊られていました。

フントリ フンチカプ (親子ツルの踊り)



フントリ フンチカプ

ツルの舞は各地に伝承されていますが、このフントリ フンチカプ (親子ツルの踊り) は様似地方に伝わる踊りです。親ツルが、卵からひなにかえ孵して、飛び方を教えて一緒に飛んでいくまでの様子を表しています。親鳥に囲まれたひな鳥が徐々に成長し、親鳥に交じって踊ります。

■ 歌詞

♪ フントーリー フンチーカプ ハウ ウ ウ ウー

♪ ハァー ハウ ウ ウ ウー

♪ ピー ヤプナー ハウ ウ ウ ウー

以上くりかえし

フントリ フンチカプは、ひざのしなやかな動きと、はばたく様子を表すのが大事な踊りです。この踊りでは、特別な衣装でツルを表します。袖のない着物を裏にしてはおり、表の模様が見えるように頭からかぶって、着ます。その着物のすその両端を持って、翼に見立てて羽ばたき、ツルが飛んでいく様子を表します。



■ 踊りの各部

〈ツルの翼となる衣装〉

フントリ フンチカナには、袖のない特別な着物を使います。着物は裏に穿着て、すそ付近にぬいつけられた輪に指を通してすそを持ちあげ、頭にかぶります。



〈羽ばたき〉

両手を上下させてツルが羽ばたく様子を表します。



基本的なうごきです。

①まず、親鳥の前にひな鳥がかがみます。親子とも立ひざで、翼を閉じた状態から羽ばたきはじめて、



*ひな鳥が卵の状態からスタート



ゆっくりと立ち上がります親は大きく、ひなは小さく羽ばたきます。



ひな鳥の羽ばたきを徐々に大きくします。



*親鳥と同じ羽ばたき

②左に歩き出します。左足を横に出した時に、一回羽ばたき、右足をそろえてかがむ時に、一回羽ばたきます。この動きをくりかえします。

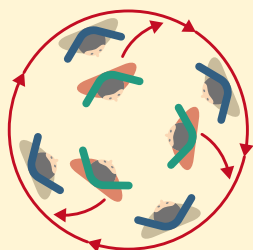


③ひな鳥は親鳥の横に入って、輪になって踊ります。からだは常に輪の内側へ向けます。

基本的には、卵（ひな鳥）役一人に親鳥役が一人つきますが、今回は卵（ひな鳥）役は3人、親鳥役は4人の構成です。

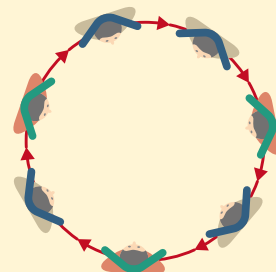


親鳥の輪に入るひな鳥のコース



1

ひな鳥はまわりはじめてから4回ほど羽ばたく間に親鳥の横に入り輪になって踊る。



2

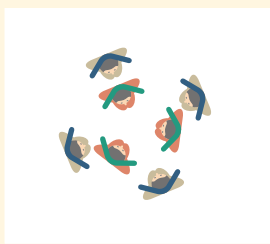
ひな鳥が輪に入ったら少し輪を広げる。一周し上手へ踊りながら退場する。

〈図6〉

舞台を想定して上手へ退場し、終了します。

【踊りのながれ】

 かがみ  立ち



ア 1 親鳥の前にひな鳥がかがむ。
親子とも立ひざで、翼を閉じて待機。

2 親鳥、ひな鳥とも羽ばたいてゆっくりと立ち上がる。
親鳥は大きくひな鳥は小さく羽ばたく。

親鳥
ひな鳥

3 ひな鳥の羽ばたきを徐々に大きくする。
(9回羽ばたく間にゆっくりと立ち上がる)



ひな鳥はまわりはじめてから4回ほど羽ばたく間に親鳥の横に入り輪になって踊る。

からだ正面は常に輪の内側を向く。



ひな鳥が輪に入ったら少し輪を広げる。
一周し上手へ踊りながら退場する。

イ 左に歩く。
1歩横に進むときに1回羽ばたき、2歩目は深く腰を落としてかがみながら1回羽ばたく。それをくりかえす。

1歩目
2歩目

左へ
かがむ
左へ

<ツルの翼となる衣装>



袖のない着物を裏にして着る。

すそ付近につけた輪に指を通す。

両手を上下させてツルの羽ばたく様子を表す。

すそを持ち上げて頭にかぶり着物を広げる。

〈図7〉

フントリ フンチカガは、儀式の時にかぎらず、いつでもどこでもみんなが集まって楽しむときには、踊っていたと考えられます。

白糠地方

アトウイソ (舟こぎの踊り)



アトウイソ

白糠地方に伝えられてきたアトウイソ（舟こぎの踊り）は、漁の安全を祈ったときの歌と踊りといわれています。踊り手は一列に並び、波やかい櫂で舟をこぐ様子などを表します。漁労の民でもあったアイヌは、海との深い関わりがあり、踊りには、漁に出かけた夫や息子の無事を祈るとともに、恵みの海に対する感謝の気持ちも込められているといわれています。

■ 歌詞

- ♪ アトウイ ソー カー ターア イー カイヤー オー カイヤー
- ♪ オー カイ クマラン ケー

以上くりかえし

アトウイソは踊り手の数に決まりはなく、老若男女が楽しみながら踊ります。移動せずに、立ち止まったまま踊ります。終始両脚の屈伸を続けながら、波の動き、舟をこぐ様子などを表します。



■ 踊りの各部

基本的なうごきです。

- ①脚の屈伸をしながら、手を打って拍子をとります。脚を伸ばすときには、かかとを上げます。



- ②両脚の屈伸に合わせて、両手でひざをたたき、軽くにぎった手を胸元に引き上げるという動きをくりかえします。

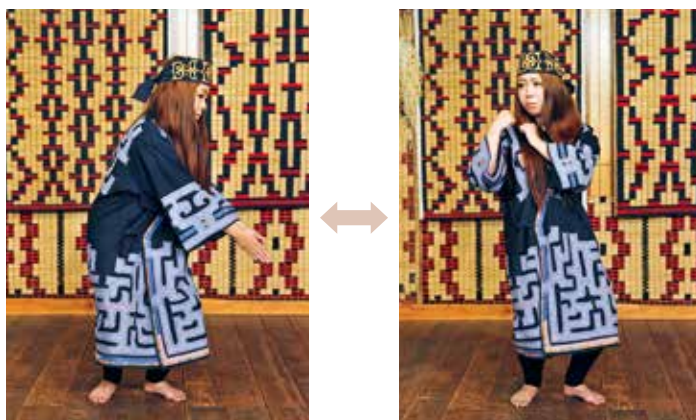


正面から



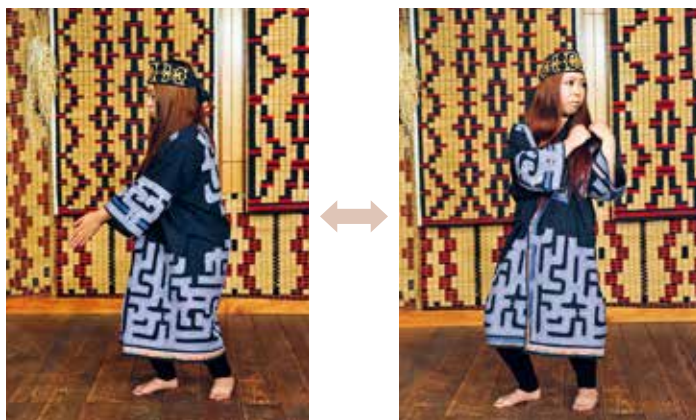
横から

③両脚の屈伸を続け、左ひざの外側で手をたたき、軽くにぎった手を右の肩に引き上げる動きをくりかえします。



正面から

さらに、この動きを左右反転させて踊ります。

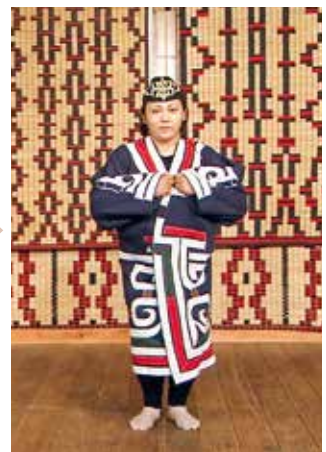


横から

- ④袖口をつかんで踊る動きです。両手は胸元に置き、顔を横に向ける動きと合わせ、「腕を開いたり、胸元に戻す動き」をくりかえします。左側、右側の順です。両脚は屈伸を続けます。



左側に腕を伸ばす



右側に腕を伸ばす

⑤踊りの最後にオンカムイをします。*オンカムイはP16を参照



アトウソは、元々は輪踊りでしたが、現在では舞台を想定した踊りになっています。この踊りは、同じ位置に立って踊りますが、脚の屈伸を終始続けるため見た目以上に体力を使います。

かつて、おばあさんたちは年をとっても、この踊りを楽しんだといいます。アイヌの人々は、昔から、神に奉納するために踊ったり、また、うれしくても悲しくても歌い踊りました。この踊りもそのような踊りの一つです。

【踊りのながれ】



歌い手

ア、イ、ウ、エの順で踊り、その後イ、アを踊りオンカムイ。

その場で立ったまま踊る踊り

ア 両脚で屈伸をしながら手を打って、拍子をとる。



脚を伸ばすときには、かかとを上げる。

(10回くりかえす)

イ 両手でひざをたたき、次に軽くにぎった手を胸元に引き上げる。この動きをくりかえす。



(10回くりかえす)

両脚の屈伸を続ける。

ウ 両脚を屈伸し、左ひざの外側で手をたたき。軽くにぎった手を、右の肩に引き上げる。以上の動きをくりかえす。



左右を反転させた動きでも踊る。

(1方向の動きを10回くりかえす)

エ 顔を横に向ける動きと合わせ、腕を開いたり、胸元に戻す動きをくりかえす。左腕の動きの後、右腕の動き。



最初は左腕を開く動き

次は右腕を開く動き

両手は胸元に置き、左右の袖口をつかむ

両脚の屈伸を続ける。

(1方向の動きを10回くりかえす)

オンカムイ

両手をゆっくり胸元へ。



〈図7〉

フンペ リムセ (クジラの踊り)



フンペ リムセ

アイヌ語のフンペとは、クジラのことです。白糠地方で伝えられてきたフンペ リムセ (クジラの踊り) は、かつて海岸に寄り上がったクジラで飢餓を救われたことに感謝を表した踊りです。

由来は次のような言い伝えです。「ものがとれなくて、コタン (村・集落) の人々が、飢えに苦しんでいるとき、長老たちは、神に祈っていました。パシクル (カラス) の神は良いことも悪いことも言ってくれます。そのカラスの鳴き声に導かれて、行ってみたところ、浜辺にクジラが寄り上がっていました。」アイヌの考えでは、クジラが寄り上がると、神が肉や油をいっばいつめこんだ倉をコタンに送ってくれたと喜ぶのです。フチ (おばあさん) たちはマキリ (小刀) と砥石をサラニナ (袋) に入れてでかけます。はじめに見つけたカラスにもお礼を言い、おすそ分けをします。フチたちはたくさんの肉や油をコタンに持ち帰って、生きのびることができたのです。これを祝って、この踊りが生まれました。この踊りは、アイヌの精神文化を感じとることができる踊りのひとつです。踊り手はクジラ役1人、カラス役は数人、そしてフチ役は2人です。



カラスがクジラを見つけて鳴いているところ



クジラに感謝しカラスに礼をする



クジラの肉を切り取る



カラスにクジラの肉をおすそ分け



肉が入った袋を重そうにかついでコタンに帰る

踊りで大事なものは、脚の屈伸です。移動するときも、立ち止まっている状態でも屈伸を続けます。終始屈伸を続けるカラスは特に体力を使います。

■ 歌詞

♪ ワーク ワーク ワック ワック (ワック ワック)
ワーク ワーク ワック ワック (ワック ワック)

♪ タンタ ピスタ フンペー ヤンナー

以上 カラス登場〜くりかえし

♪ ワーク ワーク ワック ワック (ワック ワック)
ワーク ワーク ワック ワック (ワック ワック)

♪ ボンサラニプ マキリ ボン ルイ

以上 フチ登場〜くりかえし

♪ ワーク ワーク ワック ワック (ワック ワック)
ワーク ワーク ワック ワック (ワック ワック)

♪ モツツイケ ピツツイケ

以上 カラスがクジラの肉に向かって近寄るとき〜くりかえし

♪ ワーク ワーク ワック ワック (ワック ワック)
ワーク ワーク ワック ワック (ワック ワック)

♪ ボンサラニプ マキリ ボン ルイ

以上 カラスがクジラの肉を戻すとき〜くりかえし

♪ ワーク ワーク ワック ワック (ワック ワック)
ワーク ワーク ワック ワック (ワック ワック)

♪ タンタ ピスタ フンペー ヤンナー

以上 最後までくりかえし

※ () 内はカラスのかけ声

■ 踊りの各部

基本的なうごきです。

〈フンペ (クジラ)〉

中央にフンペ役の人が横になり、左手でふとももをたたきます。



〈パシクル (カラス) のうごき〉

①カラスの動きでカラス役の人は、左右の両袖をつかみ翼に見立てます。両脚を屈伸させながら、身体を左右に傾け「腕を広げる、胸元へ引きよせる動き」をくりかえして羽ばたきます。



カラスは羽ばたきながら、横に歩きます。下手から登場し、クジラのまわりを一周します。〈図9〉

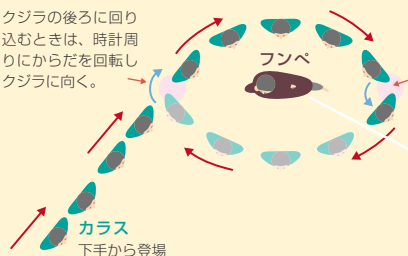


カラスの登場コース

カラスは下手から登場し、クジラのまわりを一周する。

クジラの後ろに回り込むときは、時計周りにからだを回転しクジラに向く。

クジラの前に回るときは、反時計まわりにからだを回転し正面を向く。



フンベ=クジラ
舞台中央に横になり
左手でももをたたく。

〈図9〉

②カラスがクジラの前を回るときは、反時計回りにからだをひねって正面を向きます。さらに移動して、クジラの後ろへ回り込むとき、時計回りに回転してクジラに向きます。



〈フチ（おばあさん）の道具〉

●フチの道具

袋の中にはマキリ（小刀）とクジラの肉をかたどったものが数個入っています。

※踊り用のもので刃も木製です。



クワ(杖)

サラニブ(袋)



マキリ（小刀）



クジラの肉をかたどったもの

フチは、杖を右手に持ち、袋の紐を頭にかけて背負います。

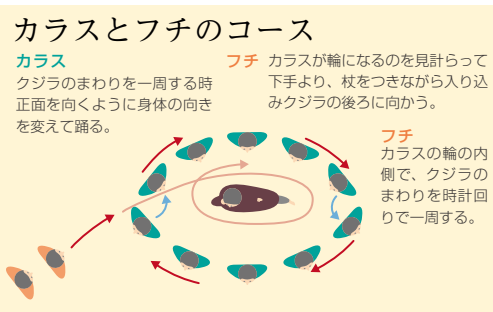


〈フチのうごき〉

③フチはカラスが輪になるのを見計らって、下手より入り込みます。杖をつきながら歩き、カラスの間を横切ってクジラの後ろに向かいます。



カラスの輪の内側でクジラの後ろからクジラのまわりを時計回りで一周します。〈図10〉



〈図10〉

〈カラスとフチ〉

④カラスは一周した後、半円形に並びます。



フチは、クジラの後ろに着くと、杖を置き、袋を頭から外してオンカムイします。両手で袋を持ち、下から上へ持ち上げます。左、右、正面の順で3方向に行い、さらに後ろを向いて同じように3方向にオンカムイします。 ※オンカムイはP16を参照

ここではサラニブを手に持ってオンカムイします。



後ろを向いてカラスにお礼

フチは袋を置き、手をたたきながらクジラのまわりを一周します。この間、カラスはその場で羽ばたき続けます。



〈フチのうごき〉

⑤フチは一周した後、かかんで袋からマキリを取り出し、クジラを切るまねをします。



カラスが近よってきたら、杖でおいはらうぐさをします。



<カラスのうごき>

- ⑥フチがクジラを切りはじめたら、両手でつつくしぐさをしながら、はねてクジラに近づきます。



- フチが杖でおいはらうしぐさをしたら、後ろに下がります。交互に近づき、つつく動きを何度かくりかえします。



<フチのうごき>

- ⑦クジラを切り、肉を袋に入れるまねをします。
途中でクジラを前に倒して、作業をつづけます。
カラスがよってきたときには、杖を取っておいはらうしぐさをします。



〈フチとカラスのうごき〉

⑧フチは肉を袋から出してカラスに投げ与えます。



カラスは左右に分かれて、肉を取り囲み、肉をつつくしぐさをしながら、時計回りにまわります。



カラスはフチに肉を返し、羽ばたきながら元の位置に戻ります。フチはマキリや肉を袋に入れ、クジラを起こします。



〈フチのうごき〉

⑨フチはクジラを起こしてから、袋を持って3方向にオンカムイします。



フチは袋を背負って立ち上がります。杖をつきながら重そうに袋を持って歩き、クジラのまわりを一周します。カラスはフチが一周する間、羽ばたき続けます。



フチがクジラの後ろについてから、歌い手のかけ声で、フチとカラスは一緒にオンカムイをして終了です。



【踊りのながれ】

1 カラス 下手から登場し、クジラのまわりを一周する。(ア)

カラス クジラの後ろに回り込むときは、時計回りに回転しクジラに向く。

フンベ=クジラ 舞台中央に横になり左手でももをたたく。

カラス クジラの前に回るときは、反時計回りに身体をひねり正面に向く。

2 フチ カラスが輪になるのを見計らって下手より、杖をつきながら入り込みクジラの後ろに向かう。

カラス (ア) フチ カラスの輪の内側で、クジラのまわりを時計回りで一周する。

フチの道具 サラニフ(袋) クワ(杖) マキリ(小刀)

クジラ肉をかたどったもの(数個)。

ア (カラス) からだを左右に傾け、「腕を広げる、胸元へ引き寄せる動き」をくりかえして羽ばたく。両袖をつかみ、翼に見立てる。両足を屈伸させながら二回の翼の開閉で、一步横に歩く。

(左右の傾きをときおりかえる。)

ウ (フチ) 一步横歩きすることに手拍子。

3 カラス クジラを一周した後、正面を開けた半円形に並び、フチ一周してクジラの後ろについたら、杖を置き、袋を頭から外して(イ)オンカムイ。

カラス 円を広げ半円に、その場で(ア)。

4 フチ 袋を置き、(ウ)でクジラの周りを一周する。カラス その場で(ア)。

5 一周後、フチ 袋からマキリを取り出し、クジラを切るまねをする。カラス 交互に(エ)を何度かくりかえす。

エ (カラス) フチがクジラを切りはじめたら、両手でつつくしぐさをして跳ねてクジラに近寄る。

途中でクジラを前に倒し、作業を続ける。

フチが杖でおいはらうしぐさをしたら、後ろに下がる。

イ (フチ) オンカムイ 両手で袋を持ち、下から上へ持ち上げる。

左、右、正面の順で3方向にオンカムイ。後を向いて3方向にオンカムイする。

6 フチ クジラを切り、肉を袋に入れるまねをする。

7 フチ 肉を袋から出してカラスに投げ与える。

8 カラス 左右に分かれて肉を取り囲む。肉をつつくしぐさをしながら、時計回りに回る。

9 カラス フチに肉を返し、(ア)で元の位置に戻る。フチ 肉を袋に入れ、クジラを起こし座ったままオンカムイ。(イ)

10 フチ 袋を背負って立ち上がる。杖をつきながら重そうに袋を持ち、クジラのまわりを一周する。カラス フチが一周する間その場で(ア)。

イ (フチ) 座ったままオンカムイ

オンカムイ (フチ) クジラの後ろについてからオンカムイする。(カラス) フチと一緒にオンカムイする。

(図11)

おわりに

日々の生活の中で生まれ、受け継がれてきたアイヌの踊り。人々が集まれば、特別な楽器がなくとも踊りが始まりました。神への感謝、そして自分たちの楽しみのために踊りました。

踊りは、アイヌの人々にとって暮らしになくてはならないものだったのです。

現在、アイヌの踊りは北海道の各地に伝承されており、地方ごとの特徴を持っています。

これらの踊りはアイヌ古式舞踊として国の重要無形民俗文化財に指定されています。



サルキウシナイ



バツタキ ウボボ



シカタクイクイ



フントリ ファンチカフ



アトウイン



フンベ リムセ

■ 出演者 (敬称略)

【帯広地方】 サルキウシナイ・バツタキ ウポポ

〈帯広カムイトウウポポ保存会〉

[踊り] 荒田 文恵 木村寿美子 酒井 真理
 竹山 明美 竹山 真紀 竹山 美奈
 長岡小百合 菱沼 麗美

[歌] 安東 春江 酒井奈々子

[解説] 酒井奈々子

【様似地方】 シカタクイクイ・フントリ フンチカフ

〈様似民族文化保存会〉

[踊り] 大野 徹人 岡本 きつ 菊地ヤス子
 草薙 敏子 熊谷 カネ 佐々木ミドリ
 澤田美恵子 高瀬 純治 富菜 栄子
 富菜しのぶ 中川 治 古舘 牧子

[歌・手拍子]

 荒木 トミ 澤木 麗子 富菜 栄子
 大野 徹人 菊地 修二 中川 治

[解説] 熊谷 カネ

【白糠地方】 アトウイソ・フンベリムセ

〈白糠アイヌ文化保存会〉

[踊り] 磯部恵津子 時田こがね 時田さなぎ
 小川 保子 松野慎太郎 新藤真奈美
 菅原タイ子 石田 由美 天内 愛香
 内山 藤子 平澤隆太郎 木村 叶
 木村明日香

[歌] 時田 幸恵 時田美恵子 菅原タイ子

[解説] 磯部恵津子

参 考 文 献

アイヌの踊りの参考となる文献を紹介します。

- 岡田和夫・松宮文子・村上紀子・平野正美
1998：『新版 絵でみる 表現・民舞 指導のポイント』株式会社あゆみ出版
- 財団法人アイヌ民族博物館
1993：『アイヌ文化の基礎知識』株式会社草風館
- 日本民俗舞踊研究会
1987：『北海道アイヌ古式舞踊 昭和61年度文化財国庫補助事業調査報告書』
- 北海道アイヌ古式舞踊連合保存会
1987：『北海道アイヌ古式舞踊・唄の記録』
昭和60年度北海道アイヌ古式舞踊連合保存会委託事業
- 田村すず子
1987：『アイヌ語沙流方言辞典』株式会社草風館
- 北海道教育庁生涯学習部文化課
1991：『平成2年度 アイヌ古式舞踊調査報告書（Ⅰ）
—白糠・新冠・鶴川—』北海道文化財保護協会
- 北海道教育庁生涯学習部文化課
1992：『平成3年度 アイヌ古式舞踊調査報告書（Ⅱ）
—様似・門別・千歳—』北海道文化財保護協会
- 日本放送協会
1965：『アイヌ伝統音楽』株式会社日本放送出版協会
- 北海道教育庁十勝教育局
1990：『帯広アイヌ古式舞踊集』（帯広カムイトウウポポ保存会監修）

踊りを体験できる施設

アイヌの踊りを体験できる施設をいくつか紹介します。

- | | |
|---------------------------------|-------------|
| ●阿寒アイヌコタン | 釧路市阿寒湖温泉4丁目 |
| ●一般財団法人アイヌ民族博物館 | 白老町若草町2-3-4 |
| ●川村カ子トアイヌ記念館 | 旭川市北門町11丁目 |
| ●札幌市アイヌ文化交流センター
「サッポロピリカコタン」 | 札幌市南区小金湯27 |
| ●新昭和神山アイヌ記念館 | 有珠郡壮瞥町昭和新山 |
| ●のぼりべつクマ牧場・ユーカーラの里 | 登別市登別温泉町224 |
| ●平取町立二風谷アイヌ文化博物館 | 平取町字二風谷 |

アイヌ生活文化再現マニュアル
踊り

【リムセ・ホリッパ】
帯広・様似・白糠編

2014年7月 発行

発行 公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構

〒060-0001

北海道札幌市中央区北1条西7丁目

プレスト1・7（5階）

TEL(011)271-4171/FAX(011)271-4181

本書の内容の一部または全部を無断で複写複製（コピー）することは、法律で禁止されていますので、あらかじめ公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構あてに許諾をお求めください。